

令和元年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和元年5月28日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 半場 江利子, 松本 重雄, 能見 伸八郎,
山本 みどり, 白須 正
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長, 長谷川担当部長, 濱口経営企画課長,
北川京北病院事務長

1 開会

2 議事・報告等

(1) 平成30年度 京都市立病院機構決算（速報値）について

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 資金残高が減少しており、留意する必要がある。
- 職員数が増えている。どの職種が増加したのか。
 - 医師数が多い。現在、医師数に見合った収益まで伸ばせていないが、手技収益を伸ばす伸びしろはまだあると思っている。現在、外来から入院医療へのシフトに向けて取り組んでいる。入院医療に注力することで、収益も増加する。
 - 外来では、比較的、症状が安定している患者さんが多い。そのような患者さんに対し、2人主治医制の周知、逆紹介を進める等の取組を病院全体で取り組んでいる。
- 診療報酬につながる治療は何か。
 - 手術である。また、平均在院日数の効率的な運用も収益増につながる。

(2) 平成30年度 年度計画における実績報告について

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 救急医療について、夜間時に一部の病棟への受入れ体制を整備したとされたが、人員を増やされたのか。
 - 看護職を増員した。運用後、6割程度その病棟で受け入れている。現在、効率的なベッドコントロールに向けて、患者支援センター立ち上げに取り組んでいる。患者支援センターで入退院を支援し、手術件数増加にもつなげていきたい。
- 救急の搬送件数が毎年減少している。原因はあるのか。
 - 救急は課題であると認識している。特に夜間・休日の救急車の断りが課題であり、今年度重点的に取り組む。
- 在宅医療との連携状況はどうか。
 - 協議会に、2箇月に1度参加している。ケアマネージャー等と連携し、在宅医療とのつながりも大切に組み込んでいく。

(3) 収益状況月次報告（平成31年4月分）

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から説明

○ 連休後の立ち上がりはどうか。

→ 6日に休日開院を行ったこともあり、立ち上がりは悪くはなかった。しかし、退院患者数が多く、稼働率にも影響した。在院日数についても効率よく運用できたが、軽症患者が多く、収益の増加にはつながらなかった。

(4) 損害賠償額について

資料4に基づき、長谷川事務局担当部長から説明

→ 議案のとおり承認された。

3 閉会